

### 甲府市立舞鶴小学校・・・11月15日（火）訪問

後期ボランティア活動が始まりました。今回訪問させていただいたのは、甲府市立舞鶴小学校（校長相河竜治先生，児童数304人）です。甲府市教育委員会では、現在86人の学生が教育ボランティアの活動をしています。その中でも舞鶴小学校が一番多く、8人が活動しています。当日は、お忙しい中にもかかわらず、校長先生、小池礼治教頭先生、ボランティア担当の樋川祐司教務主任が対応してくださいました。また、甲府市教育委員会の伊藤宏紀指導主事も共に、学生のボランティア活動の様子を参観しました。

3校時は、6年2組の音楽の授業を参観しました。ここでは今井悠さん（生活社会教育コース3年）が教育ボランティア活動をしていました。また、4校時は、不登校児童対応をしている赤松ゆうみさん（大学院教科教育専攻芸術文化コース2年）の活動を参観しました。今井さんは、教育実習をこの舞鶴小学校で行い、赤松さんも、学部2年次の時からこの舞鶴小学校でボランティア活動をしているということもあって、二人とも子どもたちとの関わりが自然で、それぞれの良いところを発揮しながら効果的な活動をしているという印象でした。



#### 教育ボランティア活動から学んだこと・気づいたこと

赤松ゆうみ

- ・大学での講義では学べない、生の学校現場が見られるということ。そのことは、将来教職を目指す学生にとって、非常に大切な経験となるということ。
  - ・教育実習とはまた違う立場で子どもと関われるということ。教育実習の期間に比べて、より教師の仕事を学ぶことができる。授業ではどのように板書するか、声かけはどうか、進め方はどう工夫してあるか、掲示物はどのようになっているかなど、時間をかけて学ぶことができる。
  - ・様々な学年の子どもと関われる機会が多い。小学校には、1年生から6年生まで成長の差が大きくある子どもがいる。そのような子どもたちと、どのように関わればいいのか、先生方から学びながら、学生自身が考え、実践しやすい環境である。また、様々な事情をもった子どもがいる。そういった子どもとも積極的に関わっていき、ゆとりとした時間の中で心を通わすということを経験することができる。
- ★現在、大学院2年生ですが、大学2・3年生のときにもこの舞鶴小学校で教育ボランティアをさせていただきました。最初は、どのように子どもと関わっていくのか、授業の際にどのように支援していくのか、などと不安に思うこともありましたが、実際に子どもを目の前にすると、自然と体が動き出します。子どもたちが温かくキラキラとした目で迎えてくれることが、何よりも力になります。学校の先生方も、熱心に指導、助言をしてくださいました。お忙しい中、指導や助言をくださり、気にかけてくださったことに、本当に感謝しています。教育ボランティアの活動に参加したことは、今後控えている教職人生においても生かされると感じています。様々な子どもと関わったこと、そして、様々な先生方と出会えたことは、何よりも大きな宝となりました。

#### ボランティア担当 樋川祐司教務主任の話

二人とも実習を経験していることもあり、子どもたちとのコミュニケーションがよく取れていて、関わり方もよく、信頼関係もできているように感じます。生き生きと指導していて、子どもたちへの指示もきはきとしつかりできています。本校は、教育実習受入れ校でもあるので、実習を経験した学生が改めて現場の指導を経験するよい場となっています。また、若い学生が入ることによって、コミュニケーションが苦手な子もうまく取れるようになり、学生の支援を希望する先生方も多いです。学生自身も良い刺激になっていて、実習後のボランティア活動は大変有効です。教育実習とボランティア活動の接続がとてもうまくいっていると思います。